

## 日本発ヴェネト便り : Casinò di Venezia

世界で初めて Casino (カジノ) ができたのは Venezia ってご存知でしたか？

Casinò di Venezia (カジノ・ディ・ヴェネツィア) が出来たのが 1638 年。(1638 年というと、フランスではルイ 14 世が生まれ、日本では、江戸城の天守閣が完成した年だそうです。☺)

このカジノ、もちろんラス・ヴェガスとかモンテカルロとかマカオなどの大規模カジノとは比較にならないほどの小さなカジノですが、1946 年からは市が所有していて、1959 年からは市営のカジノになっています。(先日、Venezia 市がこのカジノを売りに出している？という話を聞きましたが、本当でしょうかね？)

1481 年に建てられたヴェネツィア・ルネサンス様式の Ca' Vendramin Calergi (ヴェンドラミン=カレルジ宮殿) が Venezia のカジノです。Canal grande (カナル・グランデ：大運河) に面した建物です。この宮殿にもこれまた歴史があって、作曲家の Richard Wagner (リヒャルト・ワグナー) が住んでいた時期もあったそうです。(Wagner が 1883 年に亡くなったのはこの館でした。)



まあ、上に書いたようなことは後で調べて知ったことですけどね。☺

そんなこんなで、Venezia 最後の夜に「初カジノ体験」してきました！

入り口は 2 つ。運河から入る(もうこれだけでカッコいい！)か陸から入るか。(陸側の入り口も、裏口、というわけでもなさそうでした。)

迷路みたいに細くて暗い路地を抜けて到着。こちらが陸からはいる方の入り口です。2 月のある日。雪の舞う寒ーい日でした。

扉を開けると、そこは全面赤じゅうたん、ドレスアップした人多数、という別世界への入り口でした。

気になる「ドレスコード」ですが、男性はジャケット+革靴があればネクタイ無しでも大丈夫みたいです。女性はあまりカジュアルすぎなければ(もちろんジーンズとか×です。)なので、ヨーロッパでオペラとか音楽会に行くような感じで良いと思います。(私はスーツで行きました。ちょうどカーニバル中だったので、仮装にマスクの人も多かったです。)



まずは、入場します。(入場料は 5 ユーロでした。)パスポートをお忘れなく。受付で利用者登録をします。パスポートを渡して、しっかり写真も撮られます。それからクローク+ロッカーに荷物をすべて預けます。(もちろん遊ぶ資金は必要なので、お財布は必要です。)館内の写真撮影は一切禁止！

準備ができれば、受付で発行してもらった登録証を見せて入場。宮殿なので、内装や調度品など、どこもかしこも、きらびやかではなく、上品な豪華で素敵です。☺

このカジノで遊べるのは

- 各種ルーレット
- カリビアン・ポーカー
- ブラック・ジャック
- スロット・マシン

など。テーブル・ゲームはちゃんとディーラーがいて(当たり前?) 映画のワンシーンのようでした。我々もスロット・マシンなど、マシン系で遊びつつ、宮殿の見学もしつつ、ちょっと勝ちました。☺ 中には軽食が取れる Bar もありました。

「カジノ」と聞くとなんだか敷居が高そうに思っていたのですが、中に入ってみると、結構気軽に遊べる場所でした。(でもテーブル・ゲームはちゃんとルールを知らないと難しそうです。)

数時間遊んで、そろそろ深夜近く。(カジノは毎日夜中の2時くらいまで開いています)

なんと、船で駅までの送迎もあるんです！  
(これは無料でした)

これが運河からの入り口です。船から直接カジノへ。

カッコいい！なんだか映画みたい！  
(と、テンション上がる私。☺)



船を待っている間に眺めていた、とってもロマンチックな夜の Canal Grande (カナル・グランデ: 大運河) の風景。雪が冷たい雨に変わっていました。



こんな船がお迎えにやってきました。  
駅までは5分程度の船旅です。

ギャンブルっていうと、あんまり良いイメージを持ってなくて、これまであまり興味がなかった Casino ですが、完全なる「大人の社交場」でした。自分の予算に合わせて好きなように遊べば良いし、何よりちょっと「今まで知らなかった世界」をのぞいてみるのは興味深い経験でした。

「夜遊び」は苦手、という方も多いかと思いますが、試してみる価値はあったな、と思います。

世界最古の Casinò di Venezia。一度「別世界」をのぞいてみませんか?☺